

はじめに

最近世間はアートブームらしいが、生まれてこの方半世紀以上アートと触れ合って生き、三〇年弱アート・ワールドに身を置いて、その内の二〇年弱を海外で暮らした私がその言葉を聞くこと、少々違和感が有る。

それは日本の人達の間にはアート「ブーム」が有るらしいからで、私が長く住んだニューヨークではアートは決して「ブーム」とは呼ばれず、もつと日常的に人々の側に有り、家に何らかのアートが有るのは当たり前、展覧会やアートフェア、蚤のみの市に行くのは日常行事、友人の中にひとり位アーティストが居るのも普通だったからだ。

この本の依頼を受けた最大の動機は其処そこで、日本人に普通にアートのある暮らしをして貰もらいたいと願う私なりの提案書を記したいと云う事だった。

そしてもう一点。私が勤めるオークション・ハウス、クリスティーズのロンドンまたニューヨークのセール会場では、オークション開催前になると、老若男女、ジェンダー、人種、宗教

を問わず、美術館・博物館クラスの作品を誰でも無料で観る事の出来る「下見会」を開催する。そしてこの下見会には、当然世界中からコレクターやアート・ディーラー、美術館関係者が作品を観る為に集まって来るのだが、それ以外にも、例えば乳母車を引いた母親や子供連れの若い夫婦、教師に連れられた多くの学生や社会人向けのレクチャー・グループ迄、数日後に開かれるオークションに参加するとは思えない人達の姿もよく見る。

これはオークション・ハウス、延いてはアートその物自体が歴史的に公的な役割を担っているからで、この事も今日本では中々考えられない現象だと思ふ。私はそんな日本の方々に本書を通じて、アートと親しみ、アートを身近に暮らして貰い、周りに左右されない自分なりの美意識を磨いて、その美意識で人生を豊かにし、価値ある物にして行つて頂くお伝いが出来たら、それに勝る喜びは無い。

それでは「美意識のオークション」を開始しよう！

目次

はじめに

第一章 美術品オークションと云う世界

「オークション・ハウス・スペシャリスト」とは？

眠れる美術品と出会う旅

眼を鍛錬する

鑑定——「人を見る眼は、モノを観る眼」

有名コレクターの作品をゲットするチャンスは「3D」

個性溢れるオークション・ハウスの顧客達

アートの「見巧者」達の美意識

美術品の価格をはかる「査定」

美術品の値段はどうやって決まるのか？

オークションの心理学

オークション中には何が起きているのか？

オークションニアと云う指揮者

買い手こそが「真の主役」

第二章

私のアート半生記

一番緊張しているのは売り手？
日本美術品の史上最高価格の誕生
国宝級の仏像、ニューヨークへの旅
トップ・コレクターを持つ、歴史の一部を預かると云う意識
皆をハッピーにさせた奇跡の「仏像」
「プライヴェート・セール」で里帰りした「コレクション」達

私とアートの半世紀

「日本美術史家養成ギブス」

音楽と映画で開かれた西洋文化への扉

新しいアートとの「三種接近遭遇」

突然「和」の如く

「ニューヨークへ行きたいか？」

クリスティーズとの縁

第三章

美術品を巡る世にも不思議な物語

真贋を巡るドラマ

「流転の極み」な屏風

「命懸け」の網干図屏風

ビジネスシートに鎮座する壺

第四章 日本美術、その鑑賞の流儀

「モノ」が「モノ」を呼んだ、室町絵画

「崇りじゃ！」な仏像

「涙」を誘った南蛮屏風

「日本美術」とは一体何か？

世界は何故日本美術を評価するのか？

P・F・ドラッカーも日本美術の有名コレクターだった

奇妙な縁で繋がる美術品の流転

美術館が所蔵品を売る理由

オークションに掛かった、「日本美術の名品」達

① 在るべき場所に里帰りした「襖絵」

② 一〇九年間のアメリカ出張を終えた「香炉」

③ 再会した「チャイナドレスを着た女」

④ 中国生まれ、日本育ち、アメリカ在住の「茶壺」

アメリカの美術館が所蔵する「日本美術の名品達」

世界に誇れる日本美術品は「文化外交官」である

変化し続ける日本美術のマーケット

世界が目にする日本の現代美術

写真家の評価にみる「アート」の線引きの不思議

私の選ぶ「必見日本美術」ベスト30

第五章 審美眼の磨き方

一級の美術品は全て永遠の「現代美術」である
私のお薦め鑑賞法

「ホンモノ」を見抜く眼力の鍛え方

オリジナルが放つアウラは複製出来ない
出雲阿国からデコ携帯迄

バンクシーが投げかける意味

第六章 美意識を生活に活かす

「アートの遺伝子」の冒険

日本人として「遺伝子」を作る責任

「美術品のある部屋」のススメ

自分好みの美術品をどう飾るか？

美術品を買う事の意味

美術品との出会いは人との出会い

アートは「仕事に役立つ教養」なのか

おわりに